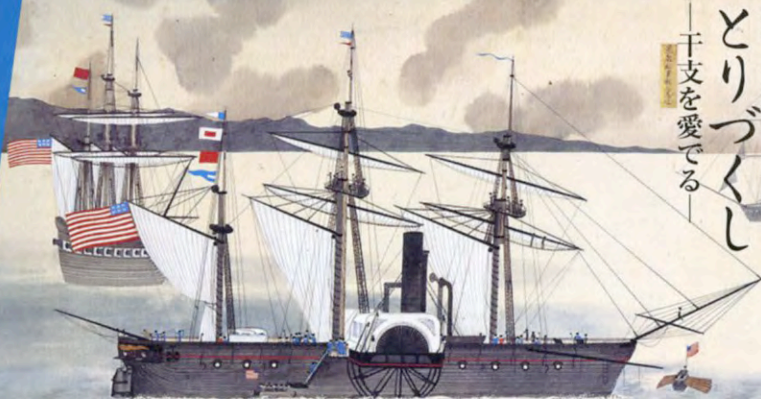


KYOTO NATIONAL MUSEUM

2016 October to December, vol.192

京都国立博物館
だより

二〇一六年
一〇・一一・一二月号



特別展覧会
没後150年 坂本龍馬

特集陳列
絵付けの美

長崎・亀山焼

特集陳列

皇室の御寺 泉涌寺

特集陳列

生誕300年 伊藤若冲

新春特集陳列

とりづくし
―千支を愛でる―

特別展覧会
没後一五〇年

坂本龍馬

平成28年10月15日(土)～11月27日(日)

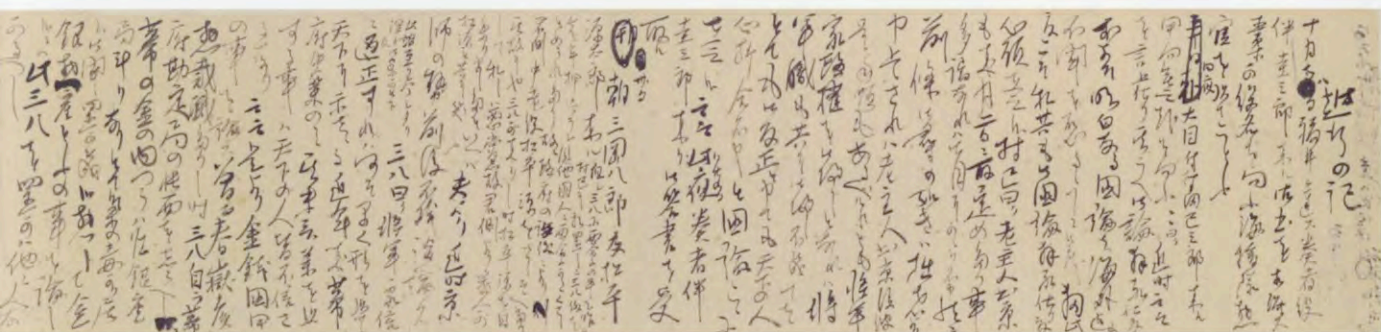
平成知新館(1F・2F)

幕末の志士坂本龍馬が京都で亡くなっておよそ一五〇年。織田信長と並んで日本史上の著名な人物のひとつに数えられる坂本龍馬を主人公にして、幕末史をふり返る特別展覧会を開催します。この展覧会では、龍馬直筆の手紙に焦点をあて、その人間的魅力に迫ります。

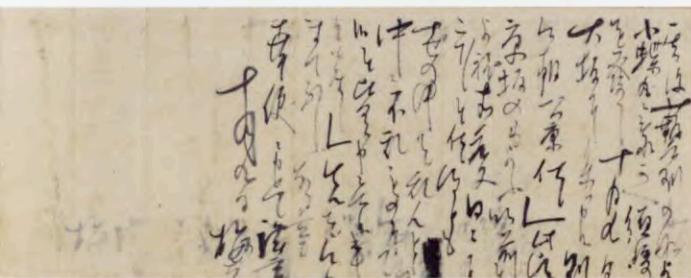
坂本龍馬は天保六年(一八三五)に土佐高知城下に郷土坂本八平の次男として生まれました。少年期には土佐で剣術を学び、嘉永六年(一八五三)に江戸へ剣術などの修行に出立しました。この年はまさに米国のペリー艦隊が浦賀沖に現れた年であり、日本は激動の幕末という時代を迎えました。江戸に赴いた龍馬も大きな影響を受けています。この江戸での修行期に、千葉定吉から「北辰一刀流長刀兵法目録」を授与されました。

土佐帰国後の龍馬は、武市半平太を盟主とする土佐勤王党に属していましたが、文久二年(一八六二)三月に土佐を脱藩。広く天下に活動の場を求めました。こうして龍馬は幕末史の表舞台に立つこととなります。勝海舟のもとでの神戸海軍操練所での活動、禁門の変ののちは長崎で同志らと亀山社中を結成、慶応元年(一八六五)には、対立していた薩摩藩と長州藩との融和に奔走し、反幕府勢力の結集に努め、翌年正月の薩長同盟締結を下支えしました。さらにその年の夏から秋には、長州藩と幕府との戦争に加勢しています。

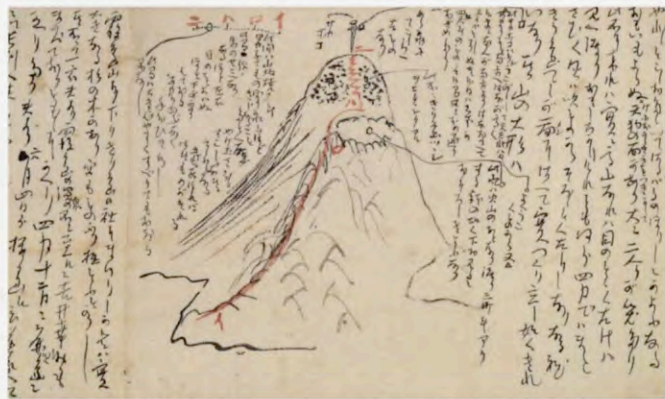
土佐藩を脱藩した龍馬でしたが、慶応三年(一八六七)に藩と和解、海援隊を結成し、京都では土佐藩を動かす形で大政奉還策を推進しました。大政奉還後、京都の新政府の樹立に奔走するも、慶応三年(一八六七)十一月十五日、



龍馬書簡 慶応三年十一月 後藤象二郎宛「越行の記」(部分)



慶応三年十月九日 坂本権平宛 京都国立博物館



重要文化財 龍馬書簡 慶応二年十二月四日 坂本乙女宛(部分) 京都国立博物館

特集陳列

絵付けの美

長崎・亀山焼

平成28年10月15日(土)～11月27日(日)

平成知新館(3F・1)



染付唐草文壺 佐賀県立九州陶磁文化館

文化四年(一八〇七)、長崎港を一望できる風頭山中腹に開窯した亀山焼は、発色の美しい呉須を用い、中国趣味の絵付けを施した染付磁器の生産で名高いやきものです。

当初は、長崎港に来航するオランダ船向けに水甕を焼いていましたが、長崎奉行からの援助も受けながら、文化十一年に他の生産地から陶工を招き、天草の良質な陶土と中国産の呉須を用いて、良質な染付磁器を製作するようになります。

亀山焼の絵付けには、長崎を中心に活躍した崎陽三筆と称される、木下逸雲、鉄翁祖門、三浦梧門をはじめ、頼山陽や田能村竹田など、当時活躍した数多くの絵師が関わりを持っています。また、中国・江蘇省から持ってきた陶土を用いたり、碗や皿といった日用品から、硯や水滴などをはじめとした文房具に至るまで、多種多様な製品が作られました。その後、慶応元年(一八六五)頃には閉窯しますが、その絵付けの美しさから、現在に至るまで、多くの愛好家を魅了してきています。閉窯後、作業場などは、坂本龍馬らが結成した亀山社中の拠点となっており、龍馬愛用として伝わる飯椀と湯呑が亀山焼であることも興味深い事象であります。

今回は、長崎歴史文化博物館、佐賀県立九州陶磁文化館の協力を得て、特別展覧会

「没後一五〇年 坂本龍馬」

に関連し、龍馬が活

京都河原町の近江屋の二階で刺客に襲われ亡くなりまし
た。享年三十三という短い生涯でした。

多くの幕末の志士のなかで、今もなお人々を惹きつける
龍馬の魅力とは、いったい何なのでしょう？ その答えは
残された一四〇通余の手紙にあります。

龍馬は多忙な日々のなか、家族に、また友人にと手紙を
書き送っています。土佐の家族、とくに姉乙女に宛てた手
紙には、尊王が攘夷かで揺れ動く世相のなか、何を想い何
をなしたのか、その心情が赤裸々に記されています。また、
龍馬は「細かいことにこだわらない大雑把な人間」と評さ
れることがありますが、友人であった三吉慎蔵や桂小五郎、
下関の伊藤九三にあてた手紙には、政治情勢だけでなく細
やかな気遣いも綴られています。こうした手紙から感じ取
れる、龍馬の自由な発想や先見性、行動力、交友の広さ、
家族への愛情、あふれるユーモアは、今も私たちを魅了し
てやみません。

この展覧会では、直筆の手紙のほかに、龍馬の遺品とし
て有名な血染の掛軸や屏風、坂本家の家紋入りの紋服、土
佐でもらった小栗流の剣術免許、近江屋で使った海獣葡萄
鏡などを一部屋に集めて展示します。

さらに、この十年に進展した龍馬研究の現状について紹
介します。個人宅から発見された「越行の記」は、福井に
三岡八郎を尋ねるもので、二十一世紀にはありえないと思
われていた、驚くべき新発見でした。また、昨年北海道で
再発見された龍馬佩用の脇差を、京都国立博物館所蔵の二
口の刀とともに展示します。そのほか、幕末の京都を描い
た当時の瓦版や錦絵、絵巻物などの絵画作品を通して、ビ
ジュアル面からも龍馬の
生きた幕末という時代に
迫ります。

日本人はなぜ龍馬に惹
かれるのか。この機会に
展示会場で確かめていた
だければ幸いです。

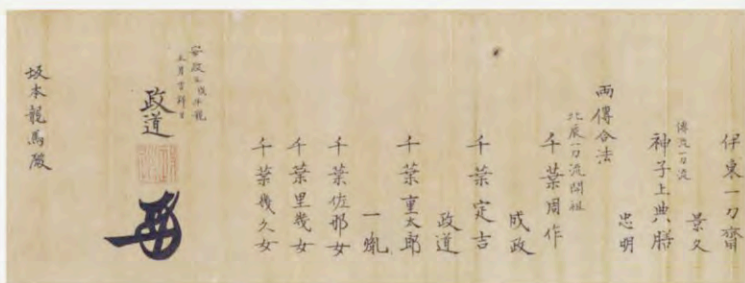
(宮川禎一)



重要文化財 梅椿図(血染の掛軸)
板倉槐堂筆 京都国立博物館



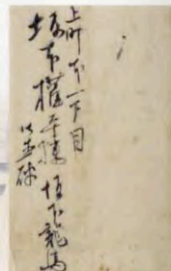
紫糸威鎧 島津斉彬所用
京都国立博物館



北辰一刀流長刀兵法目録(部分) 高知・創造広場「アクトランド」龍馬歴史館

刀 銘吉行 坂本龍馬佩用
京都国立博物館

吉行 刃文細部▶



重要文化財 龍馬書翰



肥前長崎丸山廓中之風景 歌川貞秀筆 江戸通油町藤岡屋慶次郎板 長崎歴史文化博物館



近世珍話「ええじゃないか」図(部分) 前川五嶺筆 三巻のうち下巻 京都国立博物館

〔観覧料〕
一般 1300円(1100円)
大学生 1100円(900円)
高校生 800円(600円)
* (一)内の料金は団体20名以上
* 展示期間中、作品保護のため展示替えを行います。

躍した地である長崎
で、染付磁器を中心
に花開いた亀山焼の
魅力について紹介し
たいと思います。
(降矢哲男)



染付牡丹文鉢
長崎歴史文化博物館

皇室の御寺 泉涌寺

平成28年12月13日(火)～

平成29年2月5日(日)

平成新館 1F-2.3.5

京都の東山に壮大な伽藍をかまえる泉涌寺は、

いまから八百年ほどまえ、宇都宮信房から寺地の寄進をうけた俊苒(一一六六～一二二七)により開創されました。寺名の由来は、伽藍を造営するさい、もともと仙遊寺と名付けられていた境内の一角から清水が湧き出たことによるといいます。

肥後国飽田郡(現、熊本県上益城郡)に生まれた俊苒は、幼くして仏門に入り、三十四歳となった建久十年(一一九九)には求法のため中国の宋に渡りました。滞在すること十二年、天台山や雪竇山など各地をめぐる、律を中心に禅や天台をはじめ、さまざまな学問をおさめ帰国します。こうして宋の寺院を手把手に建立された泉涌寺には、たとえば「楊貴妃観音像」(重要文化財)のように、俊苒あるいはその弟子たちが中国からもたらした文物が数多く伝わっており、これは同寺の美術を語るうえで大きな特色といえるでしょう。

また、泉涌寺は「御寺」の名が示すように、朝野の崇敬をうけるなかでも、とりわけ皇室の菩提寺として篤い信仰を集めてまいりました。こうした皇室とのつながりは、後鳥羽上皇(一一八〇～一二三九)の俊苒への帰依にはじまり、貞応三年(一二二四)には後堀河天皇の綸旨により御願寺となり、さらには四条天皇(一二三二～一二四二)の葬礼が同寺で行われて以来、より強くなったと考えられています。両者の関係を物語るように、現在、歴代天皇の遺愛品や肖像画を核に、関連する作品が豊富にのこされており、他とは異なる特徴となっています。

かような点に鑑み、この特集陳列では「日中の交流」「皇室とのつながり」という二つのテーマを柱とし、書跡・絵画・彫刻・工芸品など、さまざまな作品を通じて、泉涌寺の育んだ長い歴史を紹介いたします。貴重な文化財の数々が寺外で公開されるまたとない展覧会となりますので、この機会に多くの方にご覧いただきたい思います。

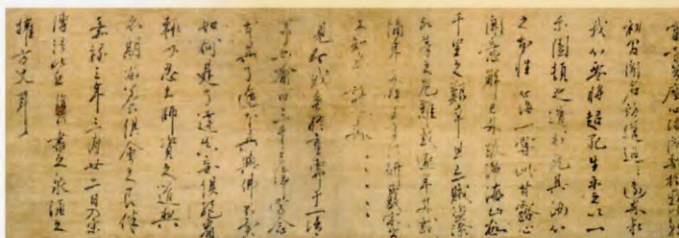
(羽田 聡)



重要文化財 楊貴妃観音像
京都・泉涌寺



泉涌寺古伽藍図
京都・泉涌寺



国宝 附法状 俊苒筆 京都・泉涌寺

※会期中に展示替えがあります。

特集陳列

生誕三〇〇年 伊藤若冲

平成28年12月13日(火)～平成29年1月15日(日)

平成新館 2F-3.5



二〇一六年に生誕三百年を迎えた伊藤若冲(一七一六～一八〇〇)の特集陳列を開催いたします。

若冲は、錦高倉青物市場に店を構えていた青物問屋「枳屋」の四代目として生まれ育った生粋の京都人です。市場屈指の店を継いだ若冲にとって、絵画制作はなんら強いられるところのない、まったくの趣味といってもよいものでしたが、その飽くなき表現の探求はおのずと市中の評判を呼び、やがて当代屈指の売れっ子画家としてその名を馳せました。

自らの目で対象を見る、ということを大切にされた若冲は、身近な花や鳥を題材にした作品を多く描きましたが、とりわけ鶏

3F-1 陶磁

【特集陳列 絵付けの美 長崎・亀山焼】

10月15日(土)～11月27日(日)

*12月13日～平成29年1月15日は休室

3F-2 考古

【日本出土の考古遺物】

10月15日(土)～11月27日(日)

*12月13日～平成29年1月15日は休室

2F-1

【新春特集陳列 とりづくしー干支を愛でるー】

12月13日(火)～平成29年1月15日(日)

2F-2

【新春特集陳列 とりづくしー干支を愛でるー】

12月13日(火)～平成29年1月15日(日)

2F-3

【特集陳列 生誕300年 伊藤若冲】

12月13日(火)～平成29年1月15日(日)

2F-4

【特集陳列 生誕300年 伊藤若冲】

12月13日(火)～平成29年1月15日(日)

2F-5

【特集陳列 生誕300年 伊藤若冲】

12月13日(火)～平成29年1月15日(日)

1F-1 彫刻

【怒りのすがたの仏たち／日本の彫刻】

10月15日(土)～11月27日(日)

【神像と獅子・狛犬／日本の彫刻】

12月13日(火)～平成29年2月19日(日)

1F-2 特別展示室

【特集陳列 皇室の御寺 泉涌寺】



垣豆群蟲図 伊藤若冲筆



果蔬淫繁図 伊藤若冲筆 京都国立博物館



六歌仙図押絵貼屏風 伊藤若冲筆



四季花鳥押絵貼屏風(左隻) 伊藤若冲筆



群鶏図押絵貼屏風(左隻) 伊藤若冲筆



蝦蟇河豚相撲図 伊藤若冲筆



百犬図 伊藤若冲筆



はその代名詞ともいえる得意画題でした。庭に鶏を飼い日々観察を重ねることで、いつしか自在にその姿を描くことができるようになったと伝えられています。若い頃から最晩年にいたるまで、常に描き続けた鶏を見ると、年を追うごとに表現を変化させていく様子がよくわかります。

一方で、若冲は少ないながら人物モチーフも手がけており、そこには花鳥画の華やかさとはまったく別種の軽妙さを見ることがができます。「六歌仙図押絵貼屏風」は、大ぶりの人物描写と諧謔味あふれる表情が魅力的な、本邦初公開の大作です。さらに、担当者イチオシの「蝦蟇河豚相撲図」には、生真面目に思われがちな若冲の、思いがけないほどユーモアに満ちた一面を見ることがができます。近年、隠居後もじつは家業のために奔走していたことが明らかとなった若冲。その魅力と人気はもはやとどまる所を知りません。

生誕三百年を迎え各地で大規模展が開催されますが、本展ではそこで展示されない作品をまじえながら、平成知新館の三部屋を若冲で埋め尽くします。「若冲って誰？」という方にもわかりやすくその魅力を伝え、しかも目の肥えた若冲ファンをもうならせたい、そんないささか無謀なたくらみを秘めながら、いままさに準備を進めているところです。どうぞご期待ください。

(福士雄也)

- 12月13日(火)〜平成29年2月5日(日) 1F-3
- 【特集陳列】皇室の御寺みけ 泉涌寺いみづき
- 12月13日(火)〜平成29年2月5日(日) 1F-4 染織
- 【染めと織りの色】金と銀
- 12月13日(火)〜平成29年1月29日(日) 1F-5
- 【特集陳列】皇室の御寺みけ 泉涌寺いみづき
- 12月13日(火)〜平成29年2月5日(日) 1F-6 漆工
- 【「南蛮漆器」と「紅毛漆器」】
- 12月13日(火)〜平成29年1月29日(日)

新春特集陳列

とりづくし

―干支を愛でる―

平成28年12月13日(火)

平成29年1月15日(日)

〔平成知新館 2F・T・2〕

京都国立博物館開館一二〇周年にあたる平成二十九年(二〇一七)は、酉年と酉です。これにちなんで、本年の「さるづくし」に続き、干支である鶏をはじめとする鳥類を表した作品を集めました。

多種多様な鳥類の美しい姿は、古くから東洋で広く好まれました。工芸品の文様などにも多くの例がみられますが、絵画では、唐代に人物や山水と並んで「花鳥画」が主要な画題のひとつとして確立します。我が国でも、平安王朝の屏風や襖などを色鮮やかな花鳥モチーフが彩ったようです。さらに中世以降は、中国画の影響を受けながら著しい発展を遂げ、名のある画家たちが寺院や城などの障屏画においてこの画題を手掛けた。雪舟(一四二〇～一五〇六?)が描いた「四季花鳥図屏風」(当館蔵)は、明で絵を学んだ彼がその成果を存分に発揮した作品で、鳥たちはクセのある独特な表情を見せてくれます。

こうした伝統的な画題として描かれる鳥たちの多くは、長寿や繁栄を表す幸福のシンボルであり、絵が贈られる人物に



重要文化財 山茶小禽図 京都国立博物館

祝意を表すおめでたいモチーフでした。そのため、花鳥画の

愛好は都鄙とひを問わず広がり、近世にはさまざまな流派の絵師が、大小の作品を数え切れないほどに手がけました。その点、大坂で活躍した長山孔寅ながやまこういん(一七六五～一八四九)の「群鶏図屏風」は、伊藤若冲風の鶏、四条派風の草花という違う手法で描いたモチーフを同一画面上で組み合わせるといった趣向の作品で、絵師ごとのスタイルの差異を使い分けて見る者を楽しませる興味深い作品です。情趣と遊戯を一体にして、瑞々しい花木と鳥を愛でる先人の感性は、今日のわれわれにも確かに受け継がれているものといえるでしょう。

本展示は、当館収蔵の花鳥画の名品佳品を陳列し、それぞれの作品の魅力を味わっていただくことを主眼とします。それぞれの時代の絵師たちが腕をふるった花鳥画の数々から、お気に入りの作品を見つけていただければ幸いです。二〇二〇年の節目を迎え新たな歴史に歩を進める新年の当館で、鳥たちの羽ばたく華麗な世界をぜひお楽しみください。

(井並林太郎)

よみもの

有形は無に如かず

花園大学名誉教授 竹貫元勝

今年(二〇一八)は臨濟禪師一一五〇年遠忌、来年は白隠禪師二五〇年遠忌にあたる。周知のように三宗において展開する日本の禪宗であるが、その内、臨濟義玄を祖とするのが、





重要文化財 四季花鳥図屏風 雪舟筆 都国立博物館



大鶏小鶏図 齊白石筆 京都国立博物館



群鶏図屏風 (左隻) 長山孔寅筆

臨済宗と黄檗宗の二宗である。今日、臨済宗十四本山と黄檗宗一本山の十五本山からなり、臨済禅師に視点を置けば、教団的には一祖二宗一五派として展開する。「臨済宗黄檗宗連合各派合議所」が設置され、「臨黄会報」を発刊し、また同所による「臨済宗黄檗宗宗学概論」(平成二八年刊)の出版があり、二宗一五派の流れは、臨済禅師の源にあることを看取し得る。

かかる「臨黄」上げての催が、今回の臨済禅師と白隠の遠忌を冠した「禅—心をかたちに—」の特別展であった。それらの「かたち」は、平成知新館の五室において、「禅宗の成立」「臨済禅の導入と成立」「戦国武将と近世の高僧」と、インド—中国—日本に東漸する禅の歴史的展開を語り、さらに、「禅の仏たち」「禅文化のひろがり」において、禅文化を特集する。実に、国宝一九件、重要文化財一〇三件を含む、二二六件の名品からなる展示であった。

禅では「無」とか、「空」といって、禅の心、悟の心を説く。それは固定的な実体のないことをいうのであり、無相なのである。その無相の心が「かたち」、すなわち実相として捉えうるものが、禅の文化財である。その「かたち」は、坐禅修行に依り師から弟子へと師資相承される法灯と、衆生済度の教化活動、檀越外護者との関わりなどを背景にもっている。そうした史的展開を踏まえ、しかも名品揃いでの見事な展示を観覧し、鑑賞した人は、知的満足度の高い機会を得て、至福の一時であったであろう。

しかし、愚堂東楚は、「縦雖千万箇、有形畢竟不如無」(縦え千万箇と雖も、有形は畢竟無に如かず)、『大円宝鑑国師語録』と言って、禅の「かたち」は「無」にまさり、無を超えることはないとする。この一言は、心に銘記しておく必要がある。

頂相は禅の画を代表するものの一つであるが、絵像のその人自身の意識は、「絵予幻質請賛」(予が幻質を絵いて賛を請う)など、「幻」という語で示していることをしばしば目にする。幻質は画かれた絵像を指すが、また画かれているその人自体が幻であることをもいう。夢窓疎石は、五言絶句の自賛に、

本質尚如幻、影像是何容(本質は尚幻の如し、影像是れ何の容ぞ)

欲見我真相、擊破太虚空(我が真相を見んと欲すれば、太虚空を撃破せよ)

と、書いている。これは『夢窓国師語録』に収載される自賛で、天龍寺藏のそれは「欲見我真相」を「要見我真相」とする。

自分自身は実在しない幻質であり、絵師が見事に画いたその絵像のすかたかたちは、何の容なのか。我が真相を見たいならば、太虚空を撃破することだと、夢窓はいう。「撃破太虚空」は、虚空をつんざきやぶることで、同じことを南浦紹明は「虚空剝烈」(大応国師語録)崇福寺録」というが、まったく煩惱がなくなるこの意味で、つまり見性すること、悟ることをいう。禅の「かたち」は、それを見る人に己が心の究明があらはじめて、真に見たことになるといふことである。「有形畢竟不如無」の本意は、ここにある。

土曜講座

- 10月1日「桃山の茶陶 一懐石の器」
京都国立博物館副館長 伊藤嘉章
- 10月15日 ミュージアムズ・フォー関連講座「坂本龍馬の手紙を読む」*
京都国立博物館列品管理室長 宮川禎一
- 10月22日「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情」*
東京国立博物館研究員 末兼俊彦氏
- 10月29日「龍馬と坂本家」*
高知県立坂本龍馬記念館学芸課長 前田由紀枝氏
- 11月5日「龍馬と薩長盟約」*
佛敎大学歴史学部教授 青山忠正氏
- 11月12日「幻の名陶 亀山焼」*・*・*
長崎県文化観光部出島復元整備室学芸員 山口美由紀氏
- 11月19日「パークス事件と残された刀」*
京都国立博物館列品管理室長 宮川禎一
- 11月26日 対談「林市郎右衛門と龍馬」*
NPO 法人京都龍馬会理事長 赤尾博章氏・京都国立博物館列品管理室長 宮川禎一
- 12月17日「若冲のユーモア」*・*・*
京都国立博物館研究員 福士雄也
- 12月24日「博物館の国際会議とは? — ICOM2016ミラノ大会から2019京都大会へ—」
京都国立博物館教育室長 山川 暁
- *…特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」関連講座
*…*特集陳列「絵付けの美 長崎・亀山焼」関連講座
*…*特集陳列「生涯300年 伊藤若冲」関連講座
※平成知新館 講堂にて、午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。
※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

イベント

《京都・らくご博物館 秋》

日 時：10月21日(金) 18:00 開場 18:30 開演
会 場：平成知新館 講堂(地下1階)
出 演：桂鯛蔵 桂雀五郎 桂米左 中入 笑福亭たま 桂塩鯛
入場料：3100円(税込)／キャンパスメンバーズ2500円(税込)(全席指定・特別展覧会団体割引引換券付)

※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。
申し込み先:お電話/博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付 *祝日は除く) WEB/ <http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【秋】申し込み画面

これからの展覧会

- ◆特集陳列 皇室の御寺 泉涌寺
2016年12月13日(火)～2017年2月5日(日)
- ◆特集陳列 生誕300年 伊藤若冲
2016年12月13日(火)～2017年1月15日(日)
- ◆新春特集陳列 とりづくし一干支を愛でる—
2016年12月13日(火)～2017年1月15日(日)
- ◆特集陳列 雛まつりと人形
2017年2月18日(土)～3月20日(月・祝)

国立博物館の展覧会

- 【東京国立博物館】
特別展「平安の秘仏—滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」
2016年9月13日(火)～12月11日(日)
臨濟禪師1150年・白隠禪師250年遠譚記念 特別展「禅一心をかたちに—」
2016年10月18日(火)～11月27日(日)
- 【奈良国立博物館】
特別展「第68回 正倉院展」
2016年10月22日(土)～11月7日(月)
- 【九州国立博物館】
特別展「京都 高山寺と明恵上人 鳥獣戯画」
2016年10月4日(火)～11月20日(日)

◆ 明治古都館休館のお知らせ ◆

京都国立博物館では、埋蔵文化財調査等のため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展覧会の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【今後の名品ギャラリー休止の予定】

名品ギャラリー休止期間：10月4日(火)～10月14日(金)
11月29日(火)～12月11日(日)
名品ギャラリー部分開館：12月13日(火)～1月15日(日)
2F・1F各展示室(3Fは閉室)
庭園のみ開館：11月29日(火)～12月11日(日)

ご利用案内

【開館時間】〈10月15日～11月27日〉
9:30～18:00
〈11月29日～12月25日〉
9:30～17:00
*金・土曜日は20:00まで開館(庭園のみ開館期間は除く)
*入館は開館の30分前まで

〔「没後150年 坂本龍馬」観覧料〕

一 般 1300円(1100円)
大 学 生 1100円(900円)
高 校 生 800円(600円)

* ()内は団体20名以上
* 名品ギャラリー観覧料：一般520円(410円)、大学生260円(210円)、高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料
* 庭園のみ開館時観覧料：一般260円(210円)(庭園ガイド冊子付き) 大学生以下、満70歳以上の方は無料

【休館日】 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)
10月14日、12月26日～2017年1月1日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円)切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527
TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)
ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2016年10月1日 デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社
ライブアートブックス